

ジョイサポコラム No.19

ジョイサポしなかったコラム

さとう内科・呼吸器科クリニック 佐藤 雅訓



2020年7月に連載がスタートし第1回から女性医師の皆さんによって書き継がれてきたジョイサポコラムですが、今回19回目を迎えるにあたり初めて男性医師が執筆することとなり読者の皆さんは（いや書いている私でもあります）いささか驚かれているのではないのでしょうか。聞くところによると女性医師支援委員会立ち上げの準備会合時には担当理事を務め、発足後も副担当理事の任にあり、プライベートでは眼科医である妻と医学生（将来の女性医師）である娘二人をサポートすべき立場にあるということで私に執筆の依頼が来たようです。

そこで、まずは妻が医師として仕事をしていく上で私がどのようなサポートをしてきたかについて書いていこうと思いPCの前に座ったのですが、いざ振り返ってみると見事に何もしていないことにびっくりしました（“他人事か”といったつっこみはご勘弁）。

私たち夫婦は妻が研修医、私が大学院生の時に知り合い、妻が眼科の医局に入局、私が大学院を卒業するタイミングで結婚しまし

た。結婚後6年間はそれぞれが常勤医として勤務しており、お互いの立場に違いはなかったので、家庭のことも少なくとも自分のことは自分でしようとの気概で生活していました。そうはいつても家事分担の取り決めがあるわけでもなく、仕事の面でも妻の都合を優先し自分の仕事を後回しにするといったことはしておらず、今考えれば何もサポートできていないに等しい状況でした。

妻が妊娠、出産を機に医局の人事を離れ、非常勤になってからはさらにひどくて、育児、家事は基本的に妻の仕事となり、私がやっていたのは子供を風呂に入れる、ゴミ出し、買い物のサポート、風呂掃除+たまに気が向いたら料理を作る程度でした。

というわけで女性医師たる妻のサポートをほぼ何もせずにここに至ってしまったことを今大いに反省しているのですが、こうなった最大の理由は私の“甘え”と言うことになるかと思います。約30年前私たちが結婚した当時は、そうはいつても今と違って妻は家庭を守り、夫は外で仕事をするといった古い価値観が残っており、私たち夫婦もなんとなくそれを受け入れ、子供ができた時点で妻は非常勤になるという選択をしたのだと思います。妻がこの選択をするにあたり何か話し合いのようなものがあったかという何もなく、私にとっては今まで通りに仕事を続けられ何も変える必要がないという至極都合の良い選択であったのでそれに甘え今に至っているということになります。

では当時妻に完全とは言わないまでも相応